



MINAMIKAWARA
SLIPPER



地域団体商標 「南河原スリッパ」

登録第 6675621 号



工芸品アップサイクルスリッパ「YAGUJI」

夜具地はふとん地として、かつて日本の暮らしの中で欠かせないものでした。特に明治後期に埼玉県秩父で考案されたほぐし織りで作られたものは、縦糸に型染めを施す先染めの織物で高級品でした。その後、昭和中期には安価な輸入生地が多用され、ほぐし織りの夜具地は徐々に姿を消していきましたが、その柄の美しさと懐かしさは今でも日本人の心に訴えかけます。南河原スリッパも秩父で考案されたほぐし織りの夜具地と同じように、昭和後期に安価な輸入品により苦境を経験してきました。同じ埼玉県で同じ境遇を経て、アップサイクルの精神と日本の伝統技術の復興のために、貴重な夜具地のデッドストック生地を使い、南河原スリッパの技術で、この「YAGUJI」を開発いたしました。南河原スリッパの人気シリーズ「アフリカパーニュ」と同じように、左右好きな組み合わせを選ぶことができます。また、女性の足元をさらに美しく彩る「ハイヒールタイプ」も同時発売予定です。

theme 02 ロス＊フラワー

2024年3月発売

環境配慮型スリッパ「ロス＊フラワー」

ロスフラワーとは、まだ綺麗に咲いているのに廃棄されてしまう花のことです。廃棄問題は、他に食べ物の廃棄問題“フードロス”や、洋服の大量生産、大量廃棄の問題等がありますが 最近はそれらを救おうとさまざまな取り組みが行われています。今回開発した、南河原スリッパ“ロス＊フラワー”も、その取り組みの一つで、同じ埼玉県の秩父市で生まれた秩父銘仙のはぎれを提供していただき、それをアップサイクルして制作しました。今回の「ロス(=廃棄)」とは秩父銘仙の小さなハギレのことで、それを「フラワー」として、南河原や秩父の花の刺繍モチーフとして生まれ変わらせたスリッパという意味です。その他にも環境に考慮したマテリアルを使用しています。スリッパの表地には国産のリネンを、下地にも再生パルプにラテックス樹脂を含浸させたものを使用しています。リネンは一万年という長い歴史を持つ繊維で、環境にかかる負担が少なく、全ての繊維の中で最も環境に優しい繊維の一つです。作物は少ない肥料で生育させられることができ、土地を疲弊させにくい作物であり、何世紀に渡っても栽培できます。またリネンの全ての部分が利用可能で無駄がなく、繊維は生分解性であり、リサイクルも可能です。





SIX CONTINENTS『六大陸(州)』というテーマで、世界各国の歴史と文化を象徴する様々な伝統柄テキスタイルと南河原の蓄積されたスリッパ製造技術の融合により、高品質で華やかな洗えるスリッパが出来ました。左右あえて違う色柄にすることで、「自分だけの組み合わせ」を楽しめるアフリカンパーニュシリーズと、ブラジルカンガシリーズ。厳選された伝統柄が特徴で、8デザインから選べるソレイアードシリーズが加わりました。

Africa 「アフリカパーニュ」

バティックは、インドネシア、マレーシアを中心としたろうけつ染め布地の特産品です。特にジャワ島のものが有名なため、「ジャワ更紗」と呼ばれることもあり 2009年ユネスコの無形文化財に認定されました。バティックは発祥後、文化の流通を経て「西アフリカ」地域に渡り、その土地の文化、風土に根差した柄や色使いを持つようになりました。頭に巻くターバン、衣服、腰巻等として使われ独特の柄が世界的に流行しています。2023年には好評のアフリカンパーニュ生地を使った、履き心地の良さと足元を更に美しく彩るヒールスリッパを開発しました。



Europe 「フランスソレイアード」

ソレイアードは、南仏プロヴァンス・プリントの代表的なブランドです。“SOLEIADO”とは、古いプロヴァンス語で、「雨の後に雲間から射す一筋の光」を意味します。16世紀後半フランス最大の貿易港であったマルセイユに輸入されたインド更紗が、プロヴァンス・プリントの起源です。創業者である CharlesDemery氏が SOULEIADOというブランドを立ち上げ、プロヴァンス・プリントを現代に蘇らせ、今ではフランスで 350年以上に渡る更紗の歴史を継承し、プロヴァンスのライフスタイルを提唱する唯一無二のブランドへと成長しました。プロヴァンスの土地を忠実に映し出した色鮮やかな布地は現在もなお人々を魅了し続けています。

South America 「ブラジルカンガ」

カンガは 19世紀の中頃にアフリカ大陸のザンジバル島やモンバサ近辺の女性たちが、ハンカチ用の布を縫い合わせて大きな布として利用し始めたのが始まりと言われています。その後アフリカからブラジルへ渡り、ブラジルらしい極彩色の色どりやブラジルの風景や動植物のモチーフを施しリゾート感溢れる生地です。今ではブラジルの人々にとって生活に欠かせない布地だけでなく、観光客向けのお土産としても人気が高いです。



日本の文化や生活に深く根付いてきた「藍染」。武士の時代には「縁起の良い色」として好まれ、また、藍の持つ機能性から庶民に至るまで好まれていた「藍」の色合いは、落ち着きと重厚さを持ちます。その藍で染めた

糸で「刺し子」生地を仕上げました。刺し子は、保温や補強のために先人の知恵から生まれた技法です。幾何学的に織られた模様は「用の美」の代表格といえるでしょう。その素材から生まれた『JAPAN BLUE SLIPPER』は、シャープで「凛」としたイメージを与えます。重厚さの「勝色(褐色)」、美しさの「瑠璃色」、柔らかさの「浅葱色」。染め重ねた回数で様々な色と表情を見せてくれます。

南河原スリッパとは？

埼玉県行田市の北部南河原では昭和 29年頃から国産スリッパ製造を開始しました。昭和 36年には組合を設立、地域全世帯数の90%がその生産に関わるようになり、昭和 55年には生産量全国 1位のスリッパ産地となりました。その後外国製の安価なスリッパに押され現在は 40社あった製造者が 4社に減ってしまい、後継者不足が深刻な問題となっています。その問題を解決すべく、2017年より製造者と南河原商工会が中心となり「南河原スリッパ」プロジェクトを始動させました。現役のファッションデザイナーと組み、南河原の技術を使い新たなスリッパ制作にチャレンジしています。耐久性と履き心地は長年培った技術の賜物です。そこに、機能や美しいデザインを融合して、今後も新しいスリッパ開発と伝統技術の継承を続けていきます。その活動を評価いただき、2022年には、「中小企業庁長官表彰」を受賞し、2023年には、「21世紀商工会グランプリ」を受賞いたしました。「南河原スリッパ」事業の目標は、一度途絶えた工業組合を復活させて、継続して産業の活性化を促進していきます。産業の活性化が誘引要素となり、南河原でのスリッパの生産者の次代担い手の育成が可能な地盤を構築し、安価な外国製品と一線を画した技術と品質の「MADE IN JAPAN」を持続的に世界市場に提供していくことを目指しています。そして伝統の「スリッパ」づくりを生業として、南河原の子供たちがいずれ帰ってこれる「ここで働いて生活できる」場所を創っていくこと。地方創生を実現することが最終的なゴールです。

南河原スリッパの歴史や新作をオンラインでご覧いただける「南河原スリッパ博物館」をオープン



INFORMATION

MINAMIKAWARA SLIPPER

HP : <https://minamikawaraslipper.jimdofree.com/>
 EC : <https://minamikawara.official.ec/>
 IG : <https://www.instagram.com/minamikawaraslipper/>



南河原商工会

〒361-0084 埼玉県行田市大字南河原 921-6
 TEL : 048-557-0742 MAIL : minami@syokoukai.jp
 HP : <https://www.minami-syokoukai.jp/>

